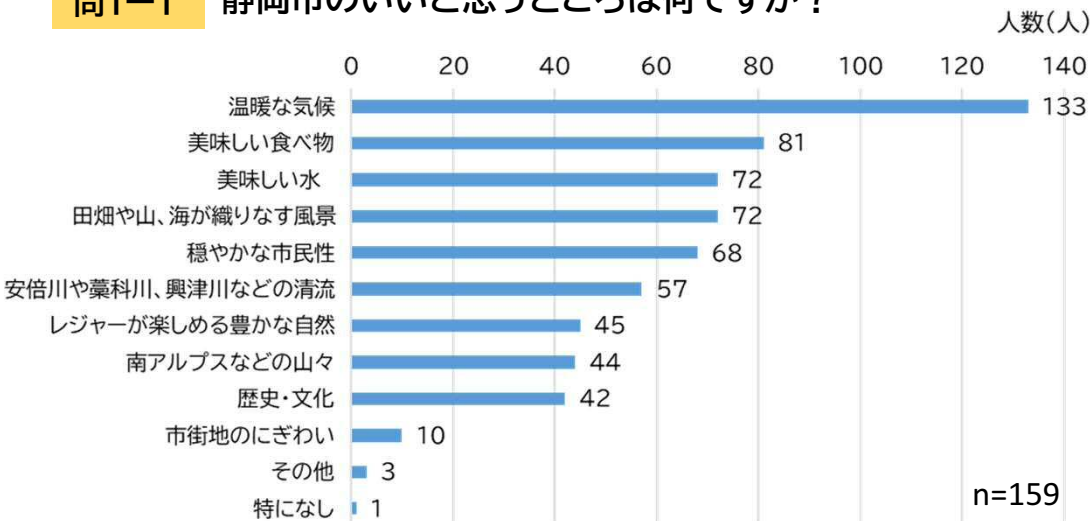


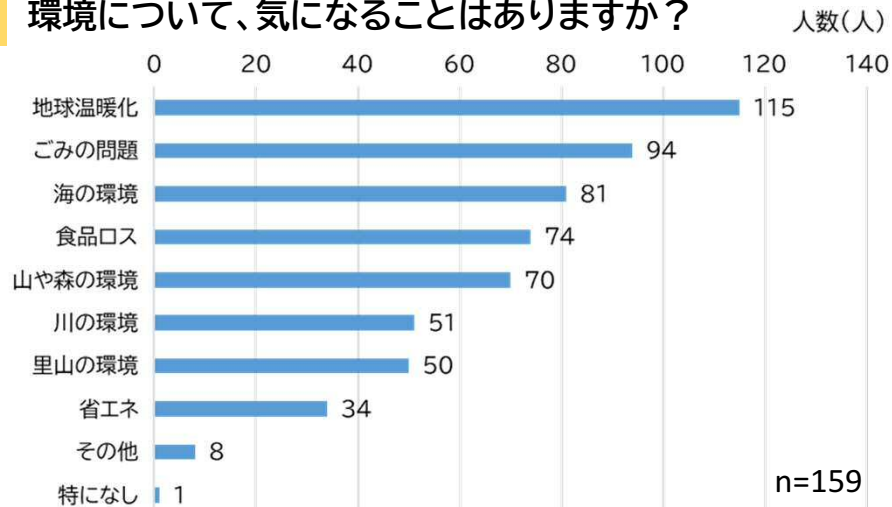
静岡市環境教育行動計画(案) 選択式設問の集計表

- 意見募集期間 令和2年11月24日(火)～令和2年12月24日(木)
- 意見募集結果 (1)意見提出者数160人 (2)意見提出件数 768件 (内 自由記述欄135件)
(3)選択式設問(問1-1、問1-2、問2、問3)の集計結果及び市の考え方

問1-1 静岡市のいいと思うところは何ですか？



問1-2 環境について、気になることはありますか？



問1-1 市の考え方

結果 「温暖な気候」、「美味しい食べ物」、「美味しい水」、「田畑や山、海が織りなす風景」が上位を占めている。

考察 特定のスポットや事象よりも、自然に恵まれた郷土や暮らしやすい生活環境に魅力を感じる方が多いと考えられる。

今後の方向性 本編p.50「行動につながる環境教育の充実」の中で、地域の田畑、山、海等の自然と触れ合いながら、食や水、自然との繋がりを体感できる静岡市オリジナルの学習メニュー(普及啓発、イベント、学習会等)を検討していく。

問1-2 市の考え方

結果① 「地球温暖化」が最も多いが、一方でその対応策となる「省エネ」への関心は低い。

考察 危機意識が日常の行動にまでつながっていない可能性がある。

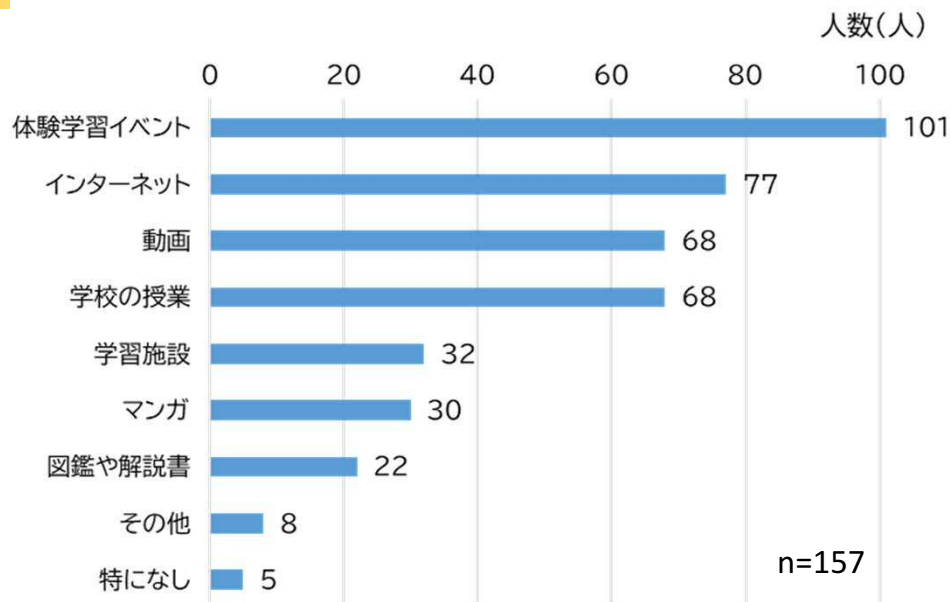
今後の方向性 啓発イベントやウェブサイトにおいて、気軽に日常生活に取り入れられる省エネの取組を紹介し、日常での実践を促す。

結果② 20代以下の若者は「食品ロス」、「ごみの問題」、60代以上の方は「山や森の環境」、「川的环境」に対する関心が高い。

考察 年代ごとの関心の差は、日常の行動や情報の取得方法による影響があると考えられる。

今後の方向性 本編p.53「誰にでもわかりやすい情報提供」の中で、ターゲット層に応じ、要望の多いテーマと広報媒体とを有効に組み合わせた情報発信を検討する。

問2 環境を学ぶ際、どのような方法で学びたいですか？



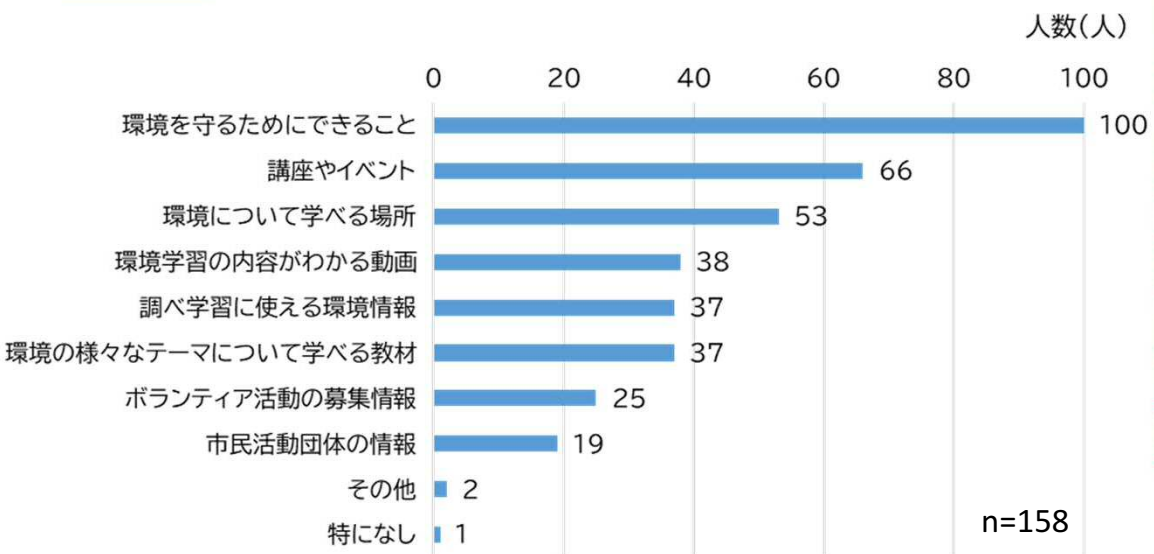
問2 市の考え方

結果 「体験学習イベント」、「インターネット」が多数を占めた。70歳以上の方はこれら2つに集中した一方で、19歳以下の方は多様な媒体を希望していた。

考察 相反するリアルとバーチャルを有効に組み合わせることで、知識や理解に実感を持たせ、より効果的な学びを得られると考えられる。

今後の方向性 本編 p.56「既存の環境関連情報の活用」の中で、インターネットによる事前学習の後に体験イベントを開催するなど、実体験と知識習得を組み合わせた学習メニューの開発を検討していく。
また、「体験学習イベント」、「インターネット」はどの世代においても希望が多かったことから、特に「基本方針2:育む」の中でこれらの充実を図っていく。

問3 環境学習について、知りたい情報は何ですか？



問3 市の考え方

結果 「環境を守るためにできること」が多数を占めた。

考察 教材や場所の情報に比べ、具体的な取組を知りたいという人が多いことから、取組事例の紹介が必要であると考えられる。

今後の方向性 本編p.53「誰にでもわかりやすい情報提供」の中で、日常生活で取り入れやすい省エネ等の取組から、参加できる環境保全活動等の情報まで、環境を守るためにできることを幅広く発信していく。情報発信の手段としては、問2の学びたい方法として多数を占めた「体験学習イベント」「インターネット」を中心に、各自が取り組める事例を紹介する。

問1～3の分析結果 問1～3の結果から、本計画(案)の考え方に問題はないことを確認でき、新たな取組の方向性についての示唆を得ることができた。